

平成 21 年 3 月 4 日発行
第 138 号

康寿診報

編集 / 発行 医療法人社団 康寿会 加藤内科医院

〒421-0301 静岡県榛原郡吉田町住吉 303-1

Tel: (0548)32-0701 緊急用:090-1758-1712 Fax: (0548)32-1280

「地域住民が『如何に榛原病院を支えるか』考えること」

本気で読むなら
拡大コピー
して下さい。

“質”を考え、毅然とした言動、後退せぬ責任 その

【以下は 2009.2.16.19:00~ 地域医療連携体制推進協議会に於いて牧之原市長西原茂樹氏が「榛原総合病院 財政面について」述べたものです】
 榛原総合病院が、なぜ経営的に大変なのかということですが、医師不足ということは全国的に同じような状況がおきており、この点が一番大きいのですが、ここでは外しておきます。もう一つは榛原総合病院は 500 床の病院を建設致しました。現状をみますと、袋井と掛川が、それぞれ 450 床、500 床規模の 2 つの病院が統合して新しい病院を造るということで、それが 500 床です。人口規模で概ね二十数万人ということになります。また、島田が新しい病院を建設する計画ですが、それが 350 床です。榛原総合病院が 500 床という計画で起工式を行った時に、私は平成 14 年 12 月 28 日の起工式に出席しました。その時に当時の管理者が、「これで人口 20 万規模の病院の建設が成る」ということを話しました。20 万規模で 500 床というのは、ほばいいのだと思いますが、その時数えたのは、御前崎が 11,000 人、相良 26,000 人、榛原 25,000 人、吉田 28,000 人くらいで、全部合わせても 9 万人ちょっとです。浜岡、初倉を入れてもまだ足りない。島田、菊川、小笠を入ると 2 0 万になるなど。ところがその圏域には御前崎市立病院、菊川病院、市立島田市民病院があります。この地域には圏域として非常に公立病院が沢山あります。そもそも、静岡県が 100 床余っているからどこかいらませんかと言って、当時の 400 床の榛原病院が 100 床頂きますと言って 500 床の病院を近代化計画の中で作ってしまったと言うことが事実であります。建築の途中で、先に茂庭院長が完成する 1 年半前に赴任されました、私は完成する半年前に市長になり病院の管理者になったわけです。今現在病院の借金が 167 億円あります。病院のこれからの借金の返済だけです。年間、榛原総合病院に基準内の繰り入れ、どこの病院でも基準内の繰り入れは行っておりますが、概ね両市町で 10~11 億円あります。それに基準外の繰り入れとして、平成 19 年から基準外の繰り入れを行っています。富士宮市立病院だけは行っておりませんでした。県内どこの市立病院でも行っています。基準外というのは赤字の補填です。他の市立病院は全部基準外の繰り入れを行っています。榛原総合病院は平成 18 年度までは基準外の繰り入れを行っていませんでした。いわゆる病院だけでやっていたわけです。ではなぜ 19 年度からやるようになったかと言いますと、一つは借金返済が始まりました。3 分の 2 は両市町で借金返済をする約束でした。しかし、3 分の 1 は榛原総合病院が稼いで返済をするということになっています。稼いで 3 分の 1 の返済が出来るはずがありません。基準外を入れたというのは借金返済ができなかったものから、そして、内部留保のお金も底をついたということで、実は平成 17 年と 18 年と一次借り入れを金融機関からしました。その分が 11 億円になりました。11 億円の一次借り入れを金融機関では、いくら公的なものだとしても、今の基準からいうと貸し付けが出来ないということで、吉田町と牧之原市で相談をして、一次借り入れの 11 億円については両市町で金融機関へ返して、両市町から貸し付けをした。その 11 億円の貸し付けを 8 年間で病院で返済しようということですが、しかし、3 分の 1 を病院で稼いで返済が出来ないから、3 分の 1 は基準外の支援として入れましょうということでも 8 年間で借金を返す分と 3 分の 1 の病院建設の返済分を基準外の繰り入れとして、19 年度で 4 億 6 千万円くらい、20 年度は 5 億数千万、ということで基準外の繰り入れを行う。従って基準内と基準外で榛原総合病院へ両市町で 16 億~17 億円出しています。そういった状況でありまして、実は循環器の医師がそのままか、脳外科医が 1 名いますので、このままやれば、多少変動はありますが、なんとかやれるのかなと思っていたところ、一気に今回のことで 21 年度以降、経営的にも 11 億円の貸し付けがあるわけです。これは、もしアウトになれば返ってこないわけですから、そういうことも考えますと、やはり両市町で金額的にはこれがほんとうに伸びきった、これ以上の支援が金額的には厳しい数字に陥っているという状況であります。従って現在の陣容で同じスタイルで、医師だけがどんどん減っていくということでは経営的には全く成り立たないということがありますので、医師不足ということと、地域医療を守るということ、経営的に市が財政支援をやっていける限界に来てしまったということです。鉢子市で稼いで返済が出来ることと全く同じことが起こってしまったという認識で私たちはいます。そういう意味で報道、新聞等に出させて頂いていますが、県も一番重要なこととして見ています。私、明日も厚生部長と会いますが、県としてもここをモデルにしたいと思っています。どういふふうな形で 4 病院を機能分担させ地域医療の崩壊を食い止めるということのモデルにしていきたいということを言っています。県がお金を出すか医師を出すかしてこればいいのですが、県も医師を連れてくるということとは不可能で、経済的なことは現状では県も大変状況が厳しいということでもあります。制度とすれば、国は 21 年度から 5 年間で、例えば病院の経営形態、今は全くの公的病院でありますけれども、これを独立行政法人化にすると、指定管理者とかいろんな形に経営形態を変えることについては、先程言いましたように負債が 167 億円、短期のリースとかの債務もあります。それから、退職金引当金も全部引くると 230 億円近くなります。230 億円近い総負債がありますから、そういったものを仮に精算して新しい経営形態にするという時については、いわゆる特別債を発行して、再建するときの用意ということも出来ますので、そういったことも含めて、経営の方向も含めて考える必要があるかと思えます。院長先生、副院長先生が浜松医大からみて頂いております。それから、私が来る前に医局の交代を前管理者が行って、こういった事態で管理市にも責任はあるでしょうが、浜松医大にも、そういったことの中で来ていただいた先生方を含めて、何でも浜松医大に強くお願いをして、それから、県にも強く言って、県は何回も浜松医大へ行って頂いておるのですが太刀打ち出来ないといった状況ですが、お願いしていきたいと思えます。

2/26 朝、黒いコートを着て中学生の登校に入り混じり笑顔振り撒きながら歩いていた吉田町長田村典彦氏。榛原医師会館での「地域医療連携体制推進協議会」榛原病院の茂庭病院長・永山副院長、牧之原市西原市長、医師会会長・副会長・理事が出席したが、田村氏は健康上の理由から欠席。第 76 回睦会(2008.4.22.)での町長の話[康寿診報第 30 号 P2,3 参照]が思い出される。

12 年程前 (1996.6.)「すべてを敵に回しても 3 年 5 年耐えれば！」と親父に告白し、その後 周囲を鑑みて退職した愛知県の西尾市民病院。埼玉県の石心会狭山病院で半年間修行をして、この吉田で開業することを決めた。今、あの頃より冷静な自分がある。そして、必要なのは、自分にとっても 医師会にとっても「質」を考え、毅然とした言動、後退せぬ責任」である。加藤寿夫

吉田町保健医療会議(2009.2.27.開催)の報告

榛原医師会吉田町担当理事 加藤寿夫

正面の真中に吉田町 田村典彦町長、榛原医師会兼三師会(医師・歯科医師・薬剤師で構成する会) 小田原秀真会長、そしてその脇に医師会・歯科医師会の町の担当理事が座った。会議開始前、私は担当理事として会長の頭越しに町長に対して「今日は何よりも榛原病院の話をして頂かないと」と数回促したが、「話は無いです」「明確なことは無いです」「まだ確立したことは無いです」と怪訝に拒否された。

吉田町の担当行政の方々であっても、牧之原市の広報の掲載すら知らされていない。2/27 吉田町の楽彩で開催した榛原医師会二区会(吉田・榛原の会)の席で「今の状況を周知徹底する努力を怠らないこと」と確認し合った。せめてこの会議に出席している方にと牧之原市の広報掲載の紙面[コピー]を配るように、この時点をお願いした。

そして、アンケート結果[別紙]を、我々(歯科医師を含めた)医師団を理解してくれている保健師に「質問の出る前に町の方から答えた方がいいよ」と言って一枚だけ手渡した。

アンケート、これは元来、町が我々に課すツールであり、我々の意見を吸い上げるもの。あまりにも聞く耳を持たないから、吉田町担当理事として行ったもの、しかも数時間前まで返ってきたものを追加して持参したものである。

議事の中で、確認をしたことについて3点を述べる。

「70歳以上の肺炎球菌のワクチン無料接種について」

70歳以上の肺炎球菌ワクチン(商品名:ニューモバックス)の無料接種について、新型インフルエンザの際 この感染後の肺炎球菌による肺炎での死亡を回避するためにパンデミックの前に可能な限り接種率を上げるような施策を願ったこと。岡野理事から予算的に許されるようであれば65歳以上に繰り下げること、保険センターへ書類を取りに行く手間を省く“策”を考慮して頂きたいとのお話。

「特定健康診査(いわゆるメタボの健診)について」

- 1) 国の方針として、慢性疾患で我々に受診中の患者さん、かかりつけ医のある住民については、医療機関からのデータ提供により健診受診を済ませた扱いになる方向付けで討議されているようである。その際は町として要請がいくであろうが宜しくお願ひしたいと(生田保健師からの話)。
- 2) 平成21年度も、吉田町は特定健康診査の無料化を継続するのか、健診事業を全面的に集団で請け負う榛原医師会第三委員会に何の報告も無いが、どのようなになっているのか至急報告して頂きたい。
- 3) 我々としては、健診が住民にとって魅力的なものになるためには、御前崎市でCr(クレアチニン)を追加しているだとか、他の市町村で心電図を追加しているだとか、無料化よりも健診自体が充実することに費用を使って頂きたい。
- 4) 鬱病の予防、「働き盛りの睡眠キャンペーン」の特定健康診査の中での実施[別紙]について、コンピューターのシステムに組み込むために、一件あたり数十円の費用が掛かるが、数年後には国が全国的に取り組もうとする事業であり、これを「前倒しで榛原医師会が提案して始めたい」という意向である。町はこ

れを受けて、実施に向け前向きに検討して頂きたい。4 月からの健診に間に合うように、医師会検査部門は用意している状況である。

- 5) 特定健康診査実施中に策を講じるのであれば、状況を十分把握した上で、現場の了承を得た上でお願いしたい。平成 20 年度、200 人以上の受診者がみえて健診の予定終了時間が 1 時間半以上オーバーしている状況、待っている健診受診者にも申し訳ないし、我々診療所の午後の診察が 1 時間以上遅れて開始する事態があったこと。この状態で、未受診者に受診を促す通知を出した。言語道断だと思われる。

「本会、吉田町保健医療会議の在り方について」

- 1) 議事録が作成されているのであれば、町の方から我々に、この「議事録」をもって、このような話し合いがなされたとの旨、報告して頂きたい。
2) 町の事業を受ける医師会・三師会の事務局、薬剤師の参加を含め、町が召集する対象の見直しをお願いする。

以上、3 点が主に我々が町にお願いした項目である。

最後に、「5 分だけ」と願ったが、司会 総括保健師 大石温子氏に「2 分だけ」時間を与えて頂き 1 分 33 秒 話した。「町は今の状況を周知徹底する努力を怠らないこと」「町^{もと}の要請の下に我々医師団に出来ること出来ないことを正確に示し、適切に医師会として対処しようとしていること」医師団の一致した意見は以上であることを話した。

会議が終って、町長は私に対し「牧之原市の広報の仕方は最低だ、在り得ないこと」と私に言い放ち、席を立った。

私は思う。今を招いた状況と現実を、冷静に分析し、公表し、否があれば詫びること。その上で、住民に意向を問うこと。この世に及び、隠蔽している時間は無い。

帰り際、3 月末で吉田町を去り 県に帰る、出向職員として大きな仕事をされた 総括保健師 大石温子氏に「これで最後だよ、お疲れ様」と挨拶した。

また、同級生だと名乗る町の保健師が私に言った。「会議で使う資料は前もって...」と。新聞の切り抜き・働き盛りの睡眠キャンペーンの資料は、前もって提出、お願いした。前回 2008.2.25.の本会議の為に、2.22 に健康づくり課 杉村勝巳課長に提出・配布をお願いした資料[別紙]は、未だに会議の席上で陽の目をみない。如何^うなっていることか? 「私 そして加藤の家系は 元来耳が悪く、声大きい」「私に間違っている点があるなら、具体的にしっかりと聞き取れるように、指摘して下さい」と話した。

何処^{どこ}までもめげずに、町と町の代表と接して行こうと思う。この吉田町で骨を埋めると、創始者 父康二の意志を継ぎ、この地で開業したのだから、心を定めて事に当たっている。

1/31 静岡県立大学学長を退任された 西垣克氏の言葉「脱病院化の医療システムの構築」「医師^{みょうり}冥利に尽きる地域として、全国から『志』^{こころざし}の高い医師の集まる地域社会の整備」に寄与したいと考える。

何処^{どこ}までも交渉する。絶対めげない。必要であれば相手に更生を求める。

「吉田町保健医療会議(2009.2.27.開催)の報告」は 榎原医師会広報「心のひろば」に 3/2 投稿をお願いした原文です。

《勉強会のご案内》

通常の勉強会は原則第 3 土曜日 13:00 から開催です。

3月7日(土)	低血糖について
4月18日(土)	第78回 陸会
5月16日(土)	運動療法について
6月13日(土)	インサ療法について
7月11日(土)	糖尿病とは
2月14日(土)	薬物療法について

ビデオ・DVD 学習会は、別紙予定表にて診療日の午前・午後開催しております。個人の希望にも随時応じております。希望される方は、職員まで申し付け下さい。

次回「第 78 回陸会」は、「病診・診診連携」をテーマに、焼津市立病院 井村満男先生にメインの講演をお願いしており、2009 年 4 月 18 日午後 吉田町図書館にて開催予定です。

《診療案内》

診療時間	月	火	水	木	金	土
8 時～12 時						
15 時～18 時						

休診日:日曜・祝日 木・土曜の午後 月末最終日の午後

受付は 初診は 17:30 まで 再診は 17:45 まで です。

受付最終時間 厳守 とさせていただきます。

《花粉症の治療薬 西洋医学・漢方による治療》



「西洋薬による花粉症治療」は「康寿診報 第 137 号 p4」を参照して下さい。

《一般的な花粉症(くしゃみ・鼻水・鼻づまり)の症状 全般に対して》

「中間～実症」 小青竜湯 [TJ-19]

「虚症」 麻黄附子細辛湯 [TJ-127]・苓甘姜味辛夏仁湯 [TJ-119]

《特徴のある花粉症の症状に対して》

鼻閉症状の強い方に対して 葛根湯加川芎辛夷 [TJ-2]・辛夷清肺湯 [TJ-104]

結膜炎に対して 越婢加朮湯 [TJ-28]

肩凝りの付加症状に対して 葛根湯 [TJ-1]

咳・くしゃみに対して 麦門冬湯 [TJ-29]

《肺炎球菌ワクチン予防接種のお知らせ》

欧米先進国の高齢者の接種率は 70～80% に達する有効性の証明されたワクチンです。吉田町では助成があり 70 歳以上の方は 無料で行なわれています。鳥インフルのパンデミックの前に接種を済ませて下さい。他の市・町の方、70 歳未満の方は ¥8,000 で実施中です。



《「チャオ御岳」スノーリゾートツアーのご案内》

御岳山の麓で、雪の中に立てこもり、戯れ・語り合いませんか!! 下記の日程にて、ツアーを企画しました。ぜひ参加してください。



第 回 3/20(金) 21(土) 22(日)
第 回 4/26(日) 27(月) 28(火) 29(水)
第 回 5/3(日) 4(月)

：民宿高平泊 ¥7,000 ；日和田ロッジ泊 ¥4,000
リフト券 1 日券 ¥3,000 [大人] 車代：¥3,000
・夕食・朝食の食事代こみの料金、飲み放題です。
・スキー・スノーボードをされない 観光目的の方等、宿泊のみの方も歓迎します。
・小学生以下の子供さんの宿泊は半額、リフト券は無料です。
詳細については職員までお問い合わせください、リゾート宿泊・日程につきお話しします。

《臨時休診のお知らせ》

お薬を切らさないようにお気をつけ下さい。

3/21(土) , 4/27(月)・28(火) , 5/9(土)・27(水)～6/1(月)は休診です。